

# 新町建設計画の進捗状況と今後の忠類地域の振興策について



**問**

平成18年2月に旧忠類村と幕別町

が合併してから3年間の忠類地域の状況の変化、そしてこのときに策定をした、新町の建設計画はどのように進められているか。次の3点について伺う。

①合併時において、旧忠類村住民は、現状の深刻な財政状況から、新町における健全財政を期待し、合併を決断した。交付税の特例等と国による財政支援は約束通り支援されているか。また、合併特例債の活用状況は。

②平成27年までの財政計画を策定したが、本町の公債費の高比率等があるが、計画達成はできるか。

③合併前と比較した忠類地域の概要は。

**町長**

①普通交付税は、合併補正として3年間で1億4千万円、また算定の特例も制度どおり算定された。

特別交付税は、3年間で4億714万円が措置された。合併特例債は、3年間で17事業、内忠類地区では、忠類ナウマン公園整備事業、忠類北11線道路整備事業、消防ポンプ車整備事業に充当される見込みである。

②この計画は、合併にあたり策定を義務付けられている。

## 忠類地域の整備方針と懸案事項について

**問**

忠類地域の整備方針と懸案事項について、次の5点について伺う。

①農業と観光開発について  
②忠類村時代からの悲願でもある、特別養護老人ホームなどの整備について  
③定住促進について  
④道路交通網の整備について  
⑤忠類総合支所職員の人員配置について。

①町の基幹産業

**町長**

①町の基幹産業

るものだが、策定時点において国の三位一体改革の内容が不透明であったこと等により乖離が生じているが、財政健全化推進プランなどに基つき健全な財政運営を図っていく。

③人口で103人、世帯数で17世帯の減少となっている。

である農業を守る立場から様ざまな施策を展開しているが、特に畜産関係では、利子補給事業や入牧料金の軽減、21年度からは新たに生乳増産に向けた制度も創設する。観光については、道の駅を核にシーニックカフェやアルコ236、白銀台スキー場などの観光資源のルート化推進を図っていく。

②忠類地域の福祉施設については、現段階では、定員

29人以下の小規模な特別養護老人ホームを整備すべく、検討を行っている。

③定住促進のためには、住宅等の提供が必要であるが、公営住宅の環境整備を図るとともに、民間活力の導入も検討する。移住体験事業の実施については、白銀台宿泊ロッジを活用するなどして、PRに努めていく。

④道道幕別大樹線の整備は、

20年度は本工事は休止したが、21年度は約440メートルが予定されており、早期完成に向けて要請活動が続いていく。

⑤「新町まちづくり計画」の中では、平成25年度に27人としているが、平成20年4月1日で40人配置で、平成23年4月1日では30人を配置予定している。



白銀台スキー場・宿泊ロッジ